

遊水地 条約登録に力

◇ 功労賞 ◇ ラムサール湿地 ネットわたらせ



水辺の生き物を分類する子供たちを見守る楠代表（左）（小山市の渡良瀬遊水地で）

環境や自然保護に関わる

6団体で前身の「渡良瀬遊水地をラムサール条約登録地にする会」を2006年3月に結成し、署名活動や周辺市町議会への要望書提出、遊水地の自然保全を訴えるシンポジウムの開催などで12年7月の登録実現を後押しした。

13年7月からは会の名前を変え、遊水地を正しく利用できるような湿地の保全と普及啓発や、遊水地に関わる団体のネットワーキ化を柱に活動している。楠通昭代表(77)は、「登録の意味を理解してもらうのに苦労したが、目標に向かって協力してやってこられた」と

振り返る。

活動を始めた頃、JR小山駅前で署名を呼びかけても、市民の反応は薄かった。関心を向けてもらうことが大切だと考え、イベントや写真展を企画して、自然のすばらしさを訴えてきた。

昨年からは、子供たちが遊水地の自然で思い切り遊べるNPO法人の活動に協力している。浅野正富事務局長は「いろいろな団体が集まる私たちの強みを生かした活動をやっていこう」と思っている」とし、楠代表は「引き継いできた自然を保全して後世につなぐたい」と話している。

自然保護 地道な活動評価

功労賞・田代さんら表彰式

県内で自然保護に貢献した個人や団体を表彰する「第30回県自然保護功労賞・奨励賞」（日本野鳥の会栃木、読売新聞東京本社主催）の表彰式が30日、宇都宮市の読売新聞宇都宮支局で行われ、功労賞を受賞した塩谷町の田代俊夫さん(87)らに賞状や盾などが贈られた。



賞状や盾を授与された田代さん(前列右)ら今年の受賞者(30日、宇都宮市河原町の読売新聞宇都宮支局で)

式では、審査員を代表して作新学院大女子短期大学の青木草彦教授が「地道な取り組みを今後も未永く続けてほしい」などと、それぞれの活動について講評した。

60年以上にわたる植物の調査研究や保護活動が評価された田代さんは「いっしょに活動している人たちの励みになります」と受賞を喜んだ。「ラムサール湿地 ネットわたらせ」の楠通昭代表(78)は「遊水地や地元にとって一番いい方法を考えながら、多くの生き物のいるところにしていきたい」と話した。市員町の「サシバの里協議会」の関沢昭会長(68)は「里山の豊かさを都市部の人にも体験してもらえる活動をしていきたい」と今後の目標を述べた。

県内で自然保護や環境保全に貢献した個人や団体を表彰する「第30回県自然保護功労賞」（読売新聞東京本社、日本野鳥の会栃木主催）の受賞者が決まった。一般や自治体、各種団体などが

ら推薦のあった候補について審査した。功労賞には、長年にわたり自然観察会の講師を務めるなどした塩谷町の田代俊夫さん(87)、渡良瀬遊水地のラムサール条約

登録に尽力した「ラムサール湿地 ネットわたらせ」、市員町で行政や住民とともにサシバが飛び交う里山環境の保全に取り組み「サシバの里協議会」が選ばれた。

高校生以下が対象の奨励賞は、鬼怒川河川敷で外来種の駆除を続けているさくら市立押上小が受賞した。表彰式は30日に宇都宮市の読売新聞宇都宮支局で行う。

賞を受賞したさくら市立押上小の菅間登校長は「自然保護活動を引き継ぐという役割を小学校も担っているのかなと思う。これからも子供たちの活動を見守っていききたい」とあいさつした。